

# 第5回さがみロボット産業特区協議会 結果概要

日時：平成26年8月29日（金）13:30～15:00

会場：横浜ベイシェラトン ホテル&タワーズ 5階 日輪

（産業労働局 蛭名局長）

定刻となりましたので、只今から「第5回さがみロボット産業特区協議会」を開催させていただきます。

私は本会の進行役を務めさせていただきます、神奈川県産業労働局長の蛭名でございます。

はじめにご承知いただきたいと思いますが、本協議会では内容に個人情報や企業秘密等が含まれることは想定されないため、報道機関や傍聴者に対し会議を公開としております。

会議中の撮影等についてもご了承願います。

それでは、開会にあたり、会長の黒岩知事よりご挨拶を申し上げます。

（黒岩知事）

神奈川県知事の黒岩祐治です。

本日は、第5回さがみロボット産業特区協議会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。ご覧いただけますように、非常にたくさんの皆さんが参加されている、この様子を見て、いかにこのプロジェクトが盛り上がりつつあるかを実感していただけたと思います。

ちょうど、前回の3月の協議会の当日の事ですが、国家戦略特区として認められました。正式には5月でしたけれども、神奈川県全域が国家戦略特区としても認められることになりました。

このことにより、神奈川では3つの特区があるということになりました。

「京浜臨海部ライフイノベーション国際戦略総合特区」、この「さがみロボット産業特区」、そして国家戦略特区ということになります。

この中で「ヘルスケア・ニューフロンティア」を目指していこうという取組、これはまさにアベノミクス第3の矢、成長戦略を担う、これが神奈川県の使命だと感じているところであります。

そのなかでこのロボット産業特区、様々な実証フィールドとして、大変皆様のご協力を得て、どんどん魅力を増していることだと思います。

この「さがみロボット産業特区」の商品化第一号といった商品もつい先日生まれました。これからどんどん新しいエリアに我々は進出していくと、この経済の成長、エンジンを回していくと同時に、人々の「いのち」を支えるロボットを形にしていく、大きな使命を担っていると考えているところであります。

今回は第二部に、「さがみロボット産業特区」の新しいHP、PR動画の公開を予定しておりますので、是非見ていただきたいと思います。

それでは、どうぞよろしく願いいたします。ありがとうございました。

（産業労働局 蛭名局長）

本日のご出席者ですが、お手元の出席者名簿のとおりでございます。

また、本日の議題及び資料につきましては、お手元に配布しております、次第に記載のとおりでございます。

それではここからの議事進行は、会長の黒岩知事にお願いいたします。

(黒岩知事)

それでは、今回、事前に皆さんにお諮りしましたように、9つの団体を新たに協議会会員としてお迎えすることができました。

各方面でご活躍されている皆さんで、大変心強い限りです。

それでは、新しく協議会に参加される方を、改めてご紹介させていただきます。

恐縮ですが、それぞれ、一言ごあいさつをお願いいたします。

まずは、有限責任事業組合LLPアトムプロジェクト代表 北村正敏様。

(LLPアトムプロジェクト 北村代表)

こんにちは。有限責任事業組合LLPアトムプロジェクト代表の北村と申します。

私どもは、5年半ほど前に、ロボットをテーマとしたまちづくりをしようということに取り組み始めました。

おかげさまで、神奈川工科大学さんや神奈川リハビリテーションさん、また厚木市さんのお力添えをいただきまして、一歩ずつ一歩ずつですけれども、今日まで歩んできたという形です。

今、知事からのお話もありましたけれども、商品化第一号ということで、「パワーアシストハンド」という機械が6月3日に発売されました。

おかげさまで、全国で100台ちょっとを皆さんがお使いになられるようになったのと、香港との取引も始まりまして、順調に一歩ずつ進んでいるかなということで、皆さんのお力添えに感謝している次第であります。

まだ単純なロボットなのですが、これからさらに、センサー等が組み込まれた、本当にロボットらしいロボットが開発中ですので、是非ご期待いただきたいと思います。

以上です、よろしく願いいたします。

(黒岩知事)

続きまして、コーワテック株式会社代表取締役社長 小栗裕治様、なお、本日は顧問である大橋啓史様にご出席です。

(コーワテック 大橋顧問)

ご紹介受けました、コーワテックの大橋でございます。

私どもは寒川町の方で消防、警察、防衛省や、民間の事業会社でご使用される特装車を製作している会社でございます。

特装車を製作している会社が、何故ロボットかと言うと、災害支援車、水難救助車など、いろいろ災害時に活躍する車を製作しているのですが、災害時に二次災害の恐れで、足止めとなるケースが時々あります。

そういう時にでも、活躍できる重機用のロボットということで、これまで内々に開発をしてきました。

今回、この協議会にも参加させていただきまして、実用化への商品開発を進めてまいりたいと思います。

どのようなロボットかといいますと、今、動画の方が出ていますが、建機に青い部分が見えると思いますが、重量にして10数キロのロボットを運転席に搭載します。

これを遠隔操縦するというものですが、大きな特徴は、あの青い部分の運転席のロボットはですね、どのメーカーのどの機種の新機にも搭載することができます。

したがって、地方の山間部などでの災害時に、このロボットをそこに輸送しさえすれば、現地に

ある既存の建機を使って、重機操作ができるというものであります。

現在、操作レスポンスの向上や、実用性を更に高めるための商品開発を進行中でございます。

このメンバーの皆さんと密接に関係を深めて、より早く、より役立つようなロボットを作ってまいりたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

(黒岩知事)

ありがとうございました。

続きまして、セコム株式会社常務執行役員 I S 研究所所長 小松崎常夫様、お願いします。

(セコム 小松崎常務執行役員)

ご紹介いただきまして、ありがとうございます。セコムの小松崎でございます。警備会社というふうに認識していただいていると思いますが、実は「警備会社にして警備会社にあらず」と、今大きく8つのサービスを展開しております。

セキュリティーは1962年、東京オリンピックの2年前に創業いたしまして、その後防災、メディカル、あるいは情報通信など、今現在8つの事業展開をしております。

何故8つかということですが、警備で調子良いので、なんとなく他のことをやろうかなということではなく、かなり前からこういったことをやろうと思い、計画的にやってまいりました。

どういうことをやっているかという、「困ったときに何だって頼りになれる会社になりたい」と言うのが私達の経営理念であります。

「困ったらセコム」。今日、皆様方に、「困ったらセコム」と覚えていただきたいと思いますので、是非ともよろしくお願いしたいと思います。

私たち、ロボットはだいぶ前からやっているのですが、「世の中に役に立ちたい」、「困った人を無くしたい」、こういう強い思いが一番大切にしたいと思っています。

その意味では、今回の神奈川県がやっていらっしゃる、強烈な知事の思い、これは非常に共振するところございまして、やはり強い思いがなければいけないかな、というのを大変大事にしております。

次には、それを形にする力がないと、ただの構想で終わってしまいます。ですから、私達は技術ですとか、様々なことを大事にしていこうじゃないかということで、努力してまいりました。

それで、やはり何だかんだ言っても、良いサービスというのは人間が真ん中にいないといけないものですから、私たちのロボット作りは、人に置き換わるものではなく、人と協調してより良いサービスを作れるようなロボット、こういうものを目指していきたいと思っています。

今現在、お身体が不自由な方々の食事支援をするマイスプーンというロボット、これが一番昔に出しており、第一号となります。

第二号機は、ここには書いてございませんが、警備の巡回をするロボットで、第三号機は今、開発中なのですが、小型飛行監視ロボットというのをやっております。

ロボットというのは人をより活かすものであり、やはりこれからの高齢化などを考えますと人が中心なのですが、少ない人数で良いクオリティーのサービスを提供すること、これが何よりも大事です。

その意味で神奈川県が考えていらっしゃるような構想は実に素晴らしい方向性で、私たちもできればそこに参加させていただいて協力したい、また参加企業の各社さんから教を頂戴して、より良いサービスが作れたら、こんな思いで今回参加させていただきましたので、是非よろしくお願い致します。

ありがとうございました。

(黒岩知事)

ありがとうございました。

それでは続きまして、ソフトバンクロボティクス株式会社法人担当 高原大海様、お願いします。

(ソフトバンクロボティクス 高原氏)

始めまして、ソフトバンクロボティクスの高原と申します。

本日はお招きいただき、誠にありがとうございました。

私もソフトバンクは、ロボット事業参入を6月に発表させていただいたばかりで、ここに書いてある会社もまだ馴染みの無い名前ですが、8月に発足したばかりでございます。

ロボットを、会社としては3年ほど検討させていただきまして、皆様にとってはまだ唐突感があるかも知れませんが、3年間検討してきて、これから世界に向けて出していくということで、会社として、2月に発売を開始しようとして現在鋭意準備をしている最中でありまして。

今日は早速ですけれども、ペッパーが皆様にご挨拶という形で動画を用意して参りましたので、是非ご覧ください。

[ペッパーの動画が流れる]

本当にできることは未知数でございますが、会社としては、「情報革命で人を幸せにする」ということを経営理念に掲げておりますので、世界初の感情認識ができるロボットという形で人とのふれあい、コミュニケーションができる、家族の一員となれるロボットを目指して、事業展開をしていこうと考えていますので、是非皆様のご指導ご協力をお願いいたします。本日はよろしく願いいたします。

(黒岩知事)

ありがとうございました。

続きまして、株式会社日立製作所クラウドサービス事業部担当部長 立仙和巳様、お願いします。

(日立製作所 立仙クラウドサービス事業部担当部長)

日立製作所の立仙と申します。

前回まではオブザーバーという立場で参加させていただきました。日立グループといたしましては、ロボットというと、30年以上前から産業用ロボットを中心にやらせていただきました。

もう少し具体的に言いますと、倉庫内の自動化ですとか、今までは人がやっていたことの機械化ということで30年やってきましたが、ここ数年で人型ということであると、愛知万博あたりから、エミューという人型ロボットを開発しております。

エミューの技術を使った延長上では、つくばの方のロボットでも、公道を自律走行ロボットということで、ここ数年いろいろとやらせていただいておりますが、いろいろ公的な制約が厳しいと体感しております。

そのあたりを特区ということで、知事の力をお借りしたいと思っております。

私自身なのですが、介護に関するロボット化ということを始めしております。

日立としましては、ヘルスケアの特区の方にも参加しているのですが、そのことでたすきがけのようにやっておりまして、今後とも世界で一番早く超高齢化社会が来ることなので、弊社としても微力ながら支援させていただければと思っておりますので、皆さんのお力を借りながらやっていきたいと思っております。

よろしく申し上げます。

(黒岩知事)

ありがとうございました。

それでは続きまして、平塚信用金庫常務理事 鶴井雅彦様、お願いします。

(平塚信用金庫 鶴井常務理事)

平塚信用金庫の鶴井でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

この度、この縁がございまして、この協議会の一員として運営に携わらせていただきました。どうぞよろしくお願い致します。

私ども平塚信用金庫は一昨年、創立80周年を迎えた信用金庫でございます。

平塚市をはじめとして、県央地区の8市1町に支店を出させていただいております。

日ごろから大変お世話になっているのですが、8市1町の中で7市1町がこの特区のエリアということで、私どもは普段の営業活動を通じて、この特区の意義、そして活動を地域の皆様に浸透させながら、このオープンイノベーションに参加できる企業を引っ張ってきたいと思っております。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

(黒岩知事)

ありがとうございます。

それでは続きまして、公益社団法人神奈川県医師会副会長 菊岡正和様、お願いします。

(県医師会 菊岡副会長)

菊岡でございます。

スライドに書いてございますように神奈川県医師会は8,387名、これは会員数ですけれども、実際にはこの倍くらいの16,000人くらいの医師が神奈川県で働いております。

我々と一番関係してくるところは、介護ですとか、それからリハビリという所だと思います。

そして今、要介護者というのは非常に増えています。

それと今は介護の機関も増えています。ですから、そういう部分を利用して、人手不足を補っていきたくて考えています。

また、今年の2月にはですね、国民の健康寿命の延伸のためにロボット技術の介護利用における重点分野として、移乗とか移動とか排泄、入浴、更には認知症の方の見守りですね、これらが重点項目となっております( )、多分我々もそういうロボット介護の機器を使いこなしたようなことをしていかなければいけないのではないかと考えております。

医師会もできるだけ皆様にご協力して、積極的に参加していきたいと思っておりますので、これを機によりよろしくお願い致します。

( 経済産業省により策定)

(黒岩知事)

ありがとうございます。

続きまして、公益社団法人神奈川県看護協会会長 篠原弘子様、お願いします。

(県看護協会 篠原会長)

ご紹介ありがとうございました、神奈川県看護協会会長をしております篠原弘子と申します。  
今回より加えていただくことになりました、どうぞよろしくお願いいたします。

神奈川県看護協会は平成24年に公益社団法人となりました。

神奈川県内で働く看護職、看護の資格を有する者が任意に加入しまして、構成しております職能団体の一つでございます。そして事業的には看護の問題に関する量的、質的支援をするとともに、県民の健康の保持増進に寄与することを目的として、活動しております。

会員はただ今、34,000人を超えました。

黒岩知事のリーダーシップの下、神奈川県内の看護職は非常に増加の一途を辿っておりますが、現在71,000人を超えたところで、会員はまだ50パーセントに足りないという入会率であります。

神奈川県看護協会の事業は大まかに言って、スライドのようなものを行っております。

一番上の方は、看護職の資質の向上でございます。

これはメインの事業でございます、現在働いている看護職の継続学習によるキャリアアップですとか認定看護師によるスペシャリストの養成、そういったものを中心とした、核になる事業でございます。

そして、神奈川県内の医療機関や様々な施設関係での医療安全に関する情報提供や相談窓口の開設、また医療安全の啓発に関することなどをしております。

そしてナースセンター事業というものもございます。

これは離職しているナース、いわゆる潜在ナースですが、このナース達に復職支援のための復職支援研修だとか、また職場の紹介、そういった無料職業紹介の事業を行っております。

右側は県民のための事業でございます。年間を通して、看護フェスティバル、まちの保健室、県民のための健康講演会などを企画しております。

下の方に青少年の・・・とありますが、中学校や高校などに出向きまして、健康面での出前講座といったようなこともしております。

また災害支援に関しても、現在、広島で災害が起きておりますが、日本看護協会という本部と連携しまして、災害時の災害支援ナースの派遣を行っております。

現在、県内で100人以上の支援ナースの登録があります。

そして、看護問題に関する政策提言ということ、これも日本看護協会との連携・共同ということでしております。

最後に右下ですが、地域看護の分野では、現在協会では県内4ヶ所の訪問看護ステーションを運営しております。

そして県内の他の訪問看護ステーションに関しましても、様々な情報提供や相談事業、訪問看護ステーションや施設で働く看護職の資質向上の研修を企画運営しております。

看護や医療の現場でも、ロボットの研究開発に、大変関心を持っておりますし、また重要な課題であると捉えております。

どうぞ今後ともよろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。

(黒岩知事)

ありがとうございます。

それでは続きまして、一般社団法人神奈川県高齢者福祉施設協議会副会長 加藤馨様、お願いいたします。

(県高齢者福祉施設協議会 加藤副会長)

一般社団法人神奈川県高齢者福祉施設協議会の加藤でございます。

よろしくお願いいたします。

高齢者福祉施設協議会はここに書いてありますように、昭和43年に神奈川県内の特別養護老人ホームや、養護老人ホームなど、いわゆる「社会福祉法人立」の26施設が集まりまして発足いたしました。

現在では横浜、川崎は別になっておりますが、県所管の老人ホーム、特養ホーム143など、合計381施設が加入している団体であります。

今日のこの資料にありますように、認知症の高齢者のコミュニケーションロボットですとか、今現実に介護現場でロボットが普及、定着している特養ホームもございます。

これからも今日の採択案件にもありますように、入浴装置、マッスルスーツなど、介護する側も、利用していただく側にも、より適したロボットとなるように、現場を抱えている団体として、現場からどれだけ発信できるかということで、この協議会に参加させていただいて、少しでも神奈川県内のロボットが普及、定着できるように前向きに考えていきたいと思い、参加させていただきます。

よろしくお願いいたします。

(黒岩知事)

どうもありがとうございました。

様々な分野から、この協議会に参加していただいているということで、このさがみロボット産業特区協議会、本当に幅広い動きになってきていると実感していただいたのではないのでしょうか。

どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、議題の「ロボットの社会への浸透・定着について」でございます。

はじめに、これまでの取組をご説明いたしまして、その後、今後の方向性について議論してまいりたいと思います。

では、事務局より説明をお願いします。

(守屋 産業・観光部長)

[これまでの取組と今後の方向性について、資料1、資料2、資料3及びスライドに沿って説明]

(黒岩知事)

只今の説明でも、特区の取組がどんどん加速しているのがお分かりいただけたかと思えます。

私も昨日、東京都内に行ってきました、この「さがみロボット産業特区」の企業誘致のためのセミナーを行ってまいりました。

サイバーダイン社、筑波大学の山海先生や東京大学の佐藤先生にも御協力いただきまして、お話をさせていただいたところですが、会場に入りきらないくらいの大変な人気でして、この取組の注目度が高いことを改めて認識しました。

さて、ここで、内閣官房長官の菅義偉氏から、この特区を応援するビデオメッセージが届いておりますのでご紹介いたします。

[菅官房長官からのビデオメッセージ流れる]

ただいまのビデオメッセージのように、「さがみロボット産業特区」は、国の成長戦略の一翼を担う取組として、大きな期待を受けているところです。

さて、それでは協議に入りたいと思います。

これまで、本特区では、生活支援ロボットの開発・実証によって、実用化を促進していくという取組と、特区の普及・啓発や、生活支援ロボットを生活空間で身近に感じていただく取組とを、着実に進めてまいりました。

また、今年度は次なる展開として、社会への普及・定着という点に目を向け、規制緩和に関して、「介護ロボットへの介護保険の適用」について協議を進めてきたところです。

このように、今後はますます、生活支援ロボットを社会に溶け込ませる取組、言い換えれば、ロボットの社会・生活への浸透・定着といった面からの取組が重要になってきます。

本日は、この点について、これから皆さんと議論したいと思います。

先ほど事務局から説明しましたように、「ニーズ志向の開発」、「低価格化」、「社会システムの見直し」、「『攻め』の普及」という、大きく4つの視点から、議論を進めます。

まず、全体を通じまして、ご意見・ご要望があれば、お願いしたいと思います。

[挙手なし]

それでは、それぞれの視点ごとに議論を進めたいと思います。

「ニーズ志向の開発」という点ですが、どんなに優れた機能のロボットでも、現場のニーズに合っていないければ受け入れられません。

そこで、まず現場の立場からご意見を伺いたいと思います。介護の現場などでは、人を抱きかかえたりすることで、腰痛になる方が多いと聞きます。

このあたりについて、高齢者福祉施設協議会さん、ご発言をお願いしたいと思います。

(高齢者福祉施設協議会)

座ったままで恐縮ですが、実際にうちの施設には100名ほど職員がいるわけですが、やはり腰を痛めてやむなく介護の現場を去る、あるいは1人で夜間は抱えなければいけないから、昼間の業務しかできなくなると、こういったケースが年に2、3例あります。

ただでさえ介護職員は確保するのが大変なわけですが、それらの理由でせっかく良い資質ある職員が逃げていくと言うか、辞めていくというのを日々目にしています。

よく大リーグのイチローが(サポーターのようなものを腰に)巻いていますが、このように力がグッと出れば、これで夜間に1人でも、それこそ20代の40キロくらいの女性が60キロくらいの男性を上げるのを無理なくできると。

ちょっとマッスルスーツのような、大リーグ養成ギブスのようにつけるものは、手間暇の問題や重さの問題などで厳しいのではないかというのが現場の感覚でございます。

(黒岩知事)

湘南ロボケアセンターさん、そういったものができつつあると考えてよろしいですね。

(湘南ロボケアセンター)

今、具体的に介護の現場というところで、介護労働の負担軽減という視点で、そういった介護現場、介護する側の方に大きな負担になっているのは大きく2つあると考えています。

まず一つは移動に伴う肉体的負担、それと、転倒、転落に伴う精神的な負担です。



これらを解決する、介護する側の負担を軽減するという意味では、腰の補助などで装着して、マッスルスーツではないのですけれども、要は介護者の負担を軽減するモデルの開発が今進められております。

(黒岩知事)

ありがとうございました。HALというのは介護をされる側が使用することを想定して始まっていますが、介護する側が装着して腰痛対策にもなる、というロボットです。

これが進化している最中で、楽しみにしたいところです。

次に開発企業のご意見を伺いたいと思います。

富士ソフトさんでは、コミュニケーションロボット「パルロ」、これもだいぶポピュラーになってきていますが、介護だけでなく、介護予防への活用も広げていきたいお考えと伺っております。

昨年度来、実証を積み重ねてきた中で、やはり、こうしたニーズを感じておられるのでしょうか。

(富士ソフト)

ご指名ありがとうございます。

昨年度は藤沢市さんのご協力をいただきまして、合計23ヶ所の高齢者施設、グループホームさんや特別養護老人ホームさんのような、認知症の高齢者さんがいらっしゃる介護現場を中心に、このパルロのプロトタイプを現場でお使いいただき、様々なことがいろいろと分かりました。

メーカー側で「これはできるだろう」と思っていたことがことごとく崩れて、また、新たな可能性について現場の方から苦言をいただいたということで、私どもは重点プロジェクトに指定していただきましたので、早く第一号を取ろうと頑張っていたのですが・・・

いやちょっと待てよと、もっともっと現場で育ててもらわないといけないな、というふうに思いまして、今年度は、実はハードウェアとしては40センチほどの小さな人型の介護支援ロボットなのですが、こちらのハードウェアまで手を入れて、実際の介護現場で健康増進運動を行うようなニーズがあるというリクエストを実際の介護現場の方々、さらには市の職員の方々から受けまして、今まさに、お医者様のお知恵を借りて、身体に良い、「未病」を治す、それをロボットで指導できるようにならないかということに着目してやっているところです。

それで介護施設の方でやらせていただいたのですが、介護施設だけではなく、もっともっと身近なところで、お爺ちゃんお婆ちゃんが3人集まって、ロボットが1台あれば介護予防運動ができて、コミュニティーができて上がるような、そのようなものを目指して今やっている最中でありまして、今年度は、新たな健康増進運動指導ロボットのようなものを意識していきたいと思っております。

(黒岩知事)

ありがとうございました。

実際に使っている中でユーザーの声などを聞きながら、新たなニーズをキャッチされながら、新しいものを作っていくのでしょうか。

行政としては、いかがでしょうか。平塚市さんは、マーケット・インの視点を施策に導入したいというお話を伺っていますが、いかがでしょうか。

(平塚市)

平塚市では昨年度に、セミナーを起点として、市内のロボット特区に関心のある企業さんで研究会を作りました。そういった中で、開発側の企業さんですとか、大学の技術ですとか、そういった情報を知りたいというお話が多数ございました。

平塚市では、平塚の沖合いのところに東京大学が持っております「平塚沖総合実験タワー」というものがあるのですが、そこで大学の方で様々な海洋観測機器や、海洋ロボットの研究が実施されております。

そういった中で、大学側で、そこで使う様々な実験機器や試作品、そういったパーツをたくさん持っていますので、是非とも発注してくださいというお願いをしまして、そういった形で大学のニーズに対するマーケット・イン的なものから、取組を始めているところです。

実際に、ある会社と大学でプロペラの部品のようなものを開発していると伺いまして、そういった取組を広めて行きたいというところから、始めていきたいというふうに考えていきたいと思っています。以上です。

(黒岩知事)

ありがとうございました。

この「ニーズ思考の開発」という点において、何かご意見ございますか。

[挙手なし]

それでは、次の視点は「低価格化」であります。本当に求められる機能を有するロボットも、価格がネックとなって導入に至らない事例は非常に多いと聞いています。

ロボットそのものの価格、ロボットを使ったサービスの価格、どちらの観点も考えられると思います。

まず藤沢市さんが、湘南ロボケアセンターを利用される方に対して、助成金で支援する取組をされていると伺っていますが、その狙いや状況等について、お聞かせください。

(藤沢市)

それでは説明をさせていただきます。ロボケアセンターが藤沢にできまして、HALを活用した生活支援を行っていただいておりますけれども、お手軽に使っていただくというのが一番大事ではとされているところであります。

リハビリに使うにはまだコストも高いのですが、まずは市としてできるところから使いやすくしていくということが、普及させていく上で一番重要なことだと思っています。

現在、62人の方に使っていただいて、車椅子生活を余儀なくされていた方も訓練で歩けるようになった、生活に張りが出た、こういった報告も数々いただいております、これからも広めていきたいと思っています。

(黒岩知事)

はい、ありがとうございます。

今、これを利用されている方は、いくらくらい必要なのでしょう。

(藤沢市)

当初予算で、1,050万円をつけており、利用者からはいただいております。

(黒岩知事)

利用者側の負担はなく、市が全面的に負担しているということでしょうか。

(藤沢市)

そういうことです。

(黒岩知事)

ダブル技研さん、ロボットを利用する方の負担軽減のため、ロボットへの介護保険適用についてご相談いただき、7月にこの協議会から提案させていただきましたが、価格を下げるための取組について、ご意見をお願いしたいと思います。

(ダブル技研)

今、おっしゃっていただいた様にですね、厚生労働省に県の方とお伺いしました。

私達は、「リーだぶる」というページをめくる装置を10数年前から売り出しております、今、価格ということだと、販売台数の6割ほどをヨーロッパの方に輸出しているのですね、国内ではあまり売れていない。なぜ売れていないのかというと、ヨーロッパではほとんど個人負担の額がなく、行政の方の補助で導入できるということでございます。

それで、当然私たちも今、おっしゃっていただいたように、介護保険の適用になると、非常にリーズナブルにご利用いただけることになると思います。

さらに、販売台数も増えるということになると思います。

そうするときっと好循環で、今よりもずっとコストダウンできて、販売価格もより下がると、そうなるとさらに使っていただける、というような上手い好循環になればいいと思います。

(黒岩知事)

ありがとうございます。

この介護保険の適用を申請されたということで、富士ソフトさんはいかがですか。

(富士ソフト)

私どもも同日に、同じ席ではございませんでしたが、県の職員の方と厚生労働省にご一緒させていただきまして、二つのポイントで申請をさせていただいているということです。

まず一つはロボット自体をレンタルするときにレンタル補助金を出してもらえないかということ、もう一つは先ほど健康増進運動というお話をさせていただきましたが、介護職員に代わって何かの機能を司った時に、保険点数を加算できないか、とご提案させていただいている形になります。

後者の方は、その行為に対して、効果があるかどうかを医学的な見地から立証してください、というリクエストが来ておりまして、先ほど申し上げましたように、お医者様の力を借りて、実際にその行為をすることによって、効果が出ることを立証した上でサービスを提供していく、ということが重要であると実感しております。

(黒岩知事)

ありがとうございました。

それでは、次の「社会システムの見直し」という点でお話を進めたいと思います。例えば、緊急搬送システムや、インフラ点検などのシステムの中に積極的にロボットを組み込むことで、よりスムーズに浸透・定着が図られると思います。

セコムさんでは、防犯、生活支援など様々な分野のサービスを複合的に提供されており、警察、消防などと十分連携を図っていると思いますが、ロボットが得た情報の公的サービスへの活用についてどのようにお考えでしょうか。

(セコム)

社会システムということではですね、先ほど、「困ったらセコム」と言いましたけれども、公には「社会システム産業を作ろう」ということで、もう30年くらい、この社会システムという言葉に馴染んでいます。

今、知事がおっしゃった点の前に、「社会システムについて考える」となると大変難しく見え、仕組みで見ると難しいのですが、「何のための社会システムなのか」というと意外にクリアになってくると思います。

ですから私たち「今は8つやっている」と申し上げましたけれども、仕組みの前に、「何のためにこれが大事なのか」という点で見ることを心がけております。

そうすると、例えば、お子さんが急病の時に「この子の命を助けるのだ」というのが一番始めにありきで、では、そのために、様々な関係する方々や様々な仕組みがどう動けば良いのか、というように考えると支援が出やすいと思います。

ところが医療システムから考えると、ややこしくなってしまう。

ですから、何のための何の仕組みなのかというふうなことを考えると、意外と簡単だというのが経験でございます。

そういう点から行きますと、ロボットというのは何のためにあるのか、これがはっきりしていると、大変簡単なんですね。

先ほど警備のロボットが少し登場してきました。雨でも風でも、ちゃんと見落とし無く回るというのが非常に大事なことなのですが、人が時々見落とししたりします。私もかつて若いときはガードマンをやっておりましたが、やはり巡回をしている時に、無かったものがあつた、あつたものが無くなったというのは分かるのですが、10個あつたものが9個になったというのはなかなか分からないのです。

そうすると、ロボットのセンサーやレーザーを使って、精密に測ると無くなったものが分かる、そうすると巡回をしていて、異常を発見するためにはロボットの方が良いなということで、ロボットを組み合わせていくわけです。

ですから、社会システムを考えたときに、何のためなのかを考えて、「このところはロボットの方がいいな」など、大変に単純すぎて申し訳ないのですが、私たちはそのようなアプローチをしております。

割とシンプルに考えたことというのが、実際にやってみますと、なかなか有効な場合も多いものですから、今まではそういう風なアプローチをしておりまして、最後に、高度な技術があるとよりシンプルに実現できるという点で、技術についても大変重要視しております。

以上でございます。

(黒岩知事)

ありがとうございます。

八千代銀行さんでは、「災害対応マルチローター」がインフラ点検の現場で活用されるよう、製造事業者とインフラ事業者を引き合わせたと伺っておりますが、いかがですか。

(八千代銀行)

私どもの営業地域は、さがみロボット産業特区の区域と完全に重複しておりまして、中小企業のお客様も多いです。

その中で金融支援というのが第一義ですけれども、お客様同士の結びつきと言うものに特化して

ですね、この産業特区に関わっていきたいと考えております。

それで今回ですね、コーワテック様を海老名の産業技術センター様にご紹介させていただきました。

これからもですね、我々は情報の取次ぎや、また企業を繋ぐということで、この産業特区に貢献していきたいと思えます。

これからもよろしくお願ひいたします。

(黒岩知事)

はい、ありがとうございます。

伊勢原市さんは、新たに観光の分野にロボットを活用されようとしていると聞いていますが、いかがでしょうか。

(伊勢原市)

伊勢原市では、県が進めております「第四の観光の核づくり」の一つということで認定されておりました、「平成大山講プロジェクト」という大山はかつて江戸時代に20万人ほどの人が来たというような賑わいをもう一度生み出そうと、そういうプロジェクトに挑んでおります。

その中で、大山は国際的な観光地ですので、色々な国の方々がおいでになり、その時にロボットで色々な情報のご案内ができないかというのを一つ考えております。

それから、先ほど少し関わりがあるかなと思って聞いておりました。生活支援ということにも繋がっているのかもしれませんが、日本中どこでも似たような状況にあると思えます。大山も御多分に漏れず、階段が沢山ありまして、それを何百段も上っていくと社に到着する状況でございまして、やはりバリアフリーの問題というのが大きな問題となっております。

そのあたりで高齢の方、身体を自由を制限されている方、こういった方々にパワーアシストのような形の器具でアシストができないか、ということを考えております。

(黒岩知事)

ありがとうございます。

それでは最後の視点に行きたいと思えます。

「『攻め』の普及」ということになりましたが、ロボットが社会の中に溶け込んだ状態をいかに見せていくことができるかという観点から、ご発言をいただければと思えます。

厚木市さんでは、イベントなどで積極的にロボットの普及・啓発を進めていると伺っておりますが、いかがでしょうか。

(厚木市)

厚木市でございます。

私どもは、このロボット産業特区には平成24年度に指定されたわけですが、実は25年度からロボットに関する体制作りをしていこうということで、まず行政でできることを考えました。

その中で、一つはロボット産業推進事業補助金を創設したのは平成25年です。もう一つはこれをどのように産業特区そのものを広げていくかということが大切であろうということで、色々なイベントを通して、ロボットというのはこのような感じのものであると子供たちに理解していただくということを考えておりました。

今年の4月なのですが、官民共同の施設がオープンいたしまして、その時にテクノフェスタを開催させていただきました。

この時には、さがみロボット産業特区の取組の紹介、これには市内の14の企業のご協力をいただきまして、ロボットの展示やデモンストレーション、先進技術などの紹介などを2日間に分けて行いました。このテクノフェスタを含めたオープニングイベントには10万人もの方々においていただいたということでもあります。

その中から、2つの団体に手を上げていただいて、積極的なお話をいただきました。1つ目が最初にご紹介いただきました北村さんのアトムプロジェクトという団体の皆様でございます。

北村さんはそのリーダーとして、見た目より心の熱い方でございます、非常に情熱を持って、これに取り組んでいただいて、先ほどに画面に出ましたけれども、パワーアシストハンドを実現していただいたということでもあります。

6月から販売を始め、その通り順調に進んでいるということでもあります。

合わせまして、先ほども出てましたが、介護用スーツですね、こういうふうなものを今開発させていただいているということで、来月に実は厚木市の病院協会の方々と病院協会の定例会で、このように具体的なものをお示しさせていただいて、先ほどからお話に出ております介護現場との整合を図っていくということで考えております。

もう一つのチームになりますが、ATSUMOというチームがあります。

ATSUMOは、人間の形をした二足歩行ロボットとなります。

あゆココロにちなみまして、「ロボココロ」と呼んでおりますけれども、これは、先日、鮎まつりというイベントが私どもの方でありまして、70万人の人においていただいたのですが、この鮎まつりの開会式で、このロボココロが司会をしてくれました。

これからは司会者がいなくなってしまうのかも知れませんが、ロボットがしっかりとアナウンスをしていただきまして、それも子供の声でアナウンスをするというのでやらせていただきました。

ちょっと後ろの方で掲げられていますが、これがパレードで歩いていくロボットです。

ロボココロはですね、160センチ強の大きさがあります。

これは自らこうして道路を歩いているということでもありますので、一般道を歩きますと、道路交通法に抵触しますので、歩行者専用道路なのでこれができるということですが、まあそんなことでやらせていただいているということです。

合わせまして、もう一つの話をお話させていただきます。

平成26年度の新規事業として、「オープンイノベーション促進補助金」の創設をいたしました。これはまだ金額は少ないのですが、先ほどお話にあったように、ロボット研究開発費用の一部に充てていただくということで、神奈川県産業技術センターなどと連携を深めながらやっているということです。

そして、企業関係ですが、さきほどご紹介いただきましたけれども、株式会社アステックさんが来年5月に厚木での開設を目指して、今その準備を進めていただいているということです。

ロボット関連では厚木市としては初めての企業進出をしていただくということで、これには初めての企業立地条例、これは来ていただくための色々なインセンティブをあげていこうということで、この条例を作ったのですが、これに適用させていただき、前進をしていただけるような環境整備をしていこうという色々なメニューを持つことによって、ロボットの推進にあたって、積極的に前に出て行く攻めの考え方をやっていこうということでございます。

ありがとうございました。

(黒岩知事)

ありがとうございました。

残念ながら、時間が来てしまいました。

何か、これだけとはいうことがありましたら、ご意見をお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

[挙手なし]

それではこういったご意見等を踏まえながら、今後の事業展開を進めてまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、進行を事務局に返します。

(産業労働局 蛭名局長)

続きまして、「商品化第1号プレート贈呈式」に移りたいと思います。

6月に、「さがみロボット産業特区」発の商品化第1号となる株式会社エルエーピー様の「パワーアシストハンド」が販売開始となりましたので、記念のプレートをお贈りしたいと思います。

知事、厚木市長、株式会社エルエーピー様はスクリーンの前へ移動願います。

この「パワーアシストハンド」につきましては、メディアにも多く取り上げられ、受注も順調に増えていると伺っております。

また、県としましても、特区から誕生した製品ということで、福祉関連団体へ積極的にご紹介するなど、側面的に支援をさせていただいております。

それでは、プレートの贈呈をお願いします。

[プレート贈呈と記者記念撮影]

それでは、代表の北村様から一言ご挨拶をいただきたいと思います。

北村様、販売開始おめでとうございます。一言よろしくお願いいたします。

(株式会社エルエーピー)

会社は株式会社エルエーピーということで発売させていただきました。

先ほどはLLPアトムプロジェクトという名前だったのですが、正式に発売するということにあたって、株式会社として立ち上げて、今やっております。

先ほども言いましたけれども、おかげさまでスタッフ等にも恵まれたというのもあるのですが、厚木市さん、神奈川県さん等の御協力をいただきまして、順調に販売が進んでおります。

厚木市、神奈川県、日本と売って、海外の香港までも話が進み始めまして、このまま世界の介護ロボットの中心に神奈川県がなる引き金になればいいなと、微力ながら、そのように目指して頑張っていきたいと思います。

まちづくりをテーマに活動してきたのですが、現実に皆さんがこれを使われて、本当に喜んでいらっしゃる姿を目の当たりにしまして、本当に良い事業というか、仕事に携わり始めたなということで大変喜んでおります。さらに頑張らなければいけないかなという気持ちでいっぱいです。

今日はこのようなプレートをいただきましたので、事務所に飾りまして、さらに皆と一丸となって頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

ありがとうございました。

(産業労働局 蛭名局長)

ありがとうございました。

この特区から、この後も第2号、第3号と商品が生まれるよう、今後とも、皆様と協力して取り

組んでまいりたいと存じますので、よろしくお願ひいたします。

それでは、これをもちまして、「第5回さがみロボット産業特区協議会」の第一部を閉会させていただきます。誠にありがとうございました。

以上